

いわき明星大学図書館報

Bulletin of the Iwaki Meisei University Library

図書館で夢を叶えて

薬学部長 川口基一郎

平成19年4月、薬学部の開設時にいわき明星大学へ赴任しました。田中晴雄初代薬学部長から薬用植物園を新設するように仰せつかったので、前年の7月、“学習センター増築工事と薬草園及び温室新築工事の起工式”に出席しました。“学習センター”は建築学会賞を受賞する瀟洒な建物となり、薬用植物園もダイヤモンドキューブ型の温室を中心に整備されました。

薬学部1年生は、開設時から「イグナイト教育1A(フレッシュアップセミナー)」のはじめに「図書館ツアー」を行い、効果的な利用法について図書館で指導を受けています。現在、情報環境はさらに豊かになり、多様な情報に容易にアクセスできるようになりました。タブレットが貸与され、電子教科書も導入されています。大学教育において、学生は授業を受けるだけでなく、自ら学ぶ学習、より能動的な学習や実践の必要性が重視されており、図書館がその支援の「場」となっています。さらに、ラーニング・コモンズが展開され、複数の学生が集まって、様々な情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」となり、学生や教職員の知的交流が活発になることを期待します。また、学生が大学を卒業して以降も生涯にわたって自ら学習し、課題解決するためには、電子情報資源、印刷物を含めて、適切な情報を得るために各種ツールを使いこなし、得られたデータや情報を分析・評価し、その成果を分かりやすく表現し、発信する能力を身に付けることが求められています(文部科学省：大学図書館に求められる機能・役割より引用)。このような意図が“学習センター”に求められているとは、建設当時には想像できませんでした。

私は、学生時代から、図書館の架台に並べられたジャーナルの新着号に目を通しながら、こんなジャーナルに自分の論文を載せたいと強く願っていました。薬用植物から新しい物質や生理活性を発見することに興味を持ち、当時最先端の植物バイオテクノロジーを用

いて実験し、論文をつくることに熱中していました。物質の精製には時間と労力を費やします。根気よく単離して、その化学構造を決定した化合物が世界でまだ報告されていない新規物質であるかどうかを明らかにする作業がありました。朝から図書館に籠り、分厚くて重いChemical Abstractを一冊ずつ何日も検索する作業でした。新規化合物かとの期待が高まる中、さらに時代を遡ると、1920年代のUS Patentに掲載済み…落胆…何度も繰り返し、一生涯新規物質を発見できないのではと落ち込むこともあり。膨大なデータをPCで検索することなど思いもよらず、ひたすら集中して体力勝負でこの作業を繰り返していました。今では、SciFinder Scholarの検索により、ほぼ瞬時にnew compound or notが判定されます。新規物質の発見は容易くありませんでしたが、薬用人参毛状根を用いて新しい強心配糖体を積極的につくる実験を試みました。幸いにも5つの新規化合物を発見し、1990年、Phytochemistry(英国)にレフェリーのクレーム無しで受理され、掲載されました。その自慢の論文(学位論文の骨子)が、2015年になっても他の研究者に引用されたことを知り…望外の喜び…夢が叶いました。

紀元前3世紀のアレクサンドリア図書館では、付近を訪れる旅人が本を持っていると、それを没収して写本を作成するというほどの徹底した資料収集を行っていたそうです。さらに、薬草園が併設されており、現在のような遺産資源の収集も行い、今日の図書館、博物館に相当する機能を併せ持つ最高の学術の殿堂となっていたものと想像します。

いわき明星大学のキャンパスは、30年経っても色褪せずに、美しく調和がとれています。中でも図書館・学習センターと薬用植物園には心地よい空間があります。ここで将来の夢を育んだ卒業生、多くの中学生や高校生には戻ってきて、夢を叶えていただきたいと願っています。

目次

●図書館で夢を叶えて	薬学部長 川口基一郎	1
●アレクサンドリア図書館雑想	教養学部地域教養学科主任 久呉 高之	2
●大学の未来に向けた環境作り	附属教育研究機関統括事務センター長 小椋 幸二	2
●多読コーナーの紹介		3
●図書館利用状況		4
●図書館トピックス		4



アレクサンドリア図書館雑想

教養学部地域教養学科主任 久 呉 高 之

ここでいう「アレクサンドリア図書館」とは、ユネスコ等のサポートを得てアレクサンドリア市に2002年にオープンした図書館の建設がその「再建」を旨とした古代アレクサンドリア図書館、すなわち、プトレマイオス朝エジプトの首都アレクサンドリアに、紀元前3世紀頃、学術研究所「ムーセイオン」の付属施設として建てられたという、謎に満ちた図書館のことである。

謎は、この図書館が、どの王の時に、どの場所に、どのような外形・構造の建物として造られたかという基本的な点から始まる。最盛期には70万巻の書（パピルスの巻物）を蔵したという「古代最大の図書館」であるが、その実体はバールにおおわれている「幻の図書館」だ。

古代のアレクサンドリアという都市自体が謎に包まれている。この市と堤防でつながれた島には、世界七不思議の一つ「ファロス島の大灯台」が同じ頃に建造されたが、現在のアレクサンドリアの地図にはファロス島なるものは存在していないし、古代都市アレクサンドリアそのものが、今では水面下に没してしまっているのである。人口100万近くを擁したという巨大都市の遺跡たるや、石ひとつ見つからない。

アレクサンドリア図書館の終焉についても諸説があり、一説には、ローマの名将カエサルが、プトレマイオス朝最後のファラオ、クレオパトラ七世とその弟との争いの内戦下で起こした火事によって破壊された（または、その大量の蔵書が灰になった）といわれ、その10年後、アントニウスが、クレオパトラの歓心を買うため、ペルガモンの図書館から二〇万巻の書を奪い、かつての損失の補償としてアレクサンドリア図書館に移したという逸話も流布している。おそらくはローマ時代にも図書館は存続したであろうが、その消滅の時を七世紀のアラブによる征服（そのさい蔵書は浴場の薪代りにされたとか）、あるいはそれ以後にまで延ばす見方もある。

地中海世界の各地からアレクサンドリアに集まり、プトレマイオス朝の庇護のもとで活躍した人物としては、幾何

学のユークリッド、地球の周の測定者にして素数発見の方法の案出者エラトステネス、流体力学のアルキメデス、古代医学の巨人ガレノス、天文学のプトレマイオスといった、著名な大学者たちの名を挙げよう。

アレクサンドロス大王の命によって建設され、やがて古代世界随一の国際学術都市となったアレクサンドリア。その学問の中核をなす大図書館に蟠集した（とくに人文系の）学者たちの研究の有り様に関しては、即位前のアレクサンドロスの家庭教師を務めたアリストテレスの影響によるところが大きい。図書館建設を發議して建設に着手し、あの有名な「セプトゥアギンタ（七〇人訳聖書）」作成の総指揮を務めたというデメトリウスは、アリストテレスが創設した学園「リュケイオン」の学徒であり、この名だたる蔵書家の直系の弟子であった。アリストテレスは、アレクサンドリア図書館の精神的な生みの親だったのである。話し言葉よりも書き言葉（文字）を重視し、いわゆる「文献学」の手法を重んずるとともに、相争う立場・学説の百科事典的な統合を求める哲学者の学風は、例えば、『ピケナス』と呼ばれる蔵書目録（著書の出だしの部分も記載されていた）の編纂にも反映している。それは、文献学的手法に基づく一種の「書誌（ビブリオグラフィ）」であった。

また、アレクサンドリアの学問・文化は〈en-cyclos paideia〉と呼ばれ（「百科事典」の語源）、これはラテン語で〈artes liberales〉と訳されて、大学の「教養課程」を意味するようになるが、〈paideia〉とは、教育とそれを通して形成された教養・文化を、〈encyclos〉とは、円環状にすべてを包括することを言い表す。liberal artsの名を冠する「教養学部」の開設により、いわき明星大学というムーセイオンが、その付属機関たる図書館を介して、諸学問のコスモポリスを形成し、いわき市を国際学術都市にするという「夢」をほのかに思い描きつつ、稿を閉じたい。

（参照：野町啓『謎の古代都市アレクサンドリア』講談社現代新書）

大学の未来に向けた環境作り

附属教育研究機関統括事務センター長 小 椋 幸 二

本学の図書館は正門から入った正面、構内のほぼ中央に設置されています。これは大学の建設に際して、図書館こそが大学教育の中核であるという意思が込められており、学生の拠り所となることが期待される建物です。現在は学習センターが隣接して建設されたことで自学自修のほかアメニティ空間としての役割が高まり、学生だけではなく学外利用者が増えている傾向が見られます。それは地域に開かれた大学としての使命として、歓迎すべき状況と言えます。

開学から30年を間近に控え、全学的な改修工事の

一環として、図書館も大規模な修繕が行われました。外壁やバックヤードの修繕もありますが、時流に合わせて館内照明のLED化が進められ、2階トイレもより使いやすくなりリニューアル済です。工事期間は通常は夏期休暇を利用して行われますが、範囲も規模も大きいので、順次工事が行われ、全て完了したのは11月末になりました。その間ご利用の皆さまにはご不便をおかけいたしました。さらにその先、10年後、20年後の未来に向けて快適にご利用いただける環境作りであることをお伝えし、ご協力に深く感謝いたします。



多読コーナー の紹介

5月下旬、学習センター2階に英語学習のための新コーナー「多読コーナー」ができました。本学の英語教育の取り組み及び多読図書の一部をご紹介します。

「多読」とは？

文章のほとんどない絵本から始めて、日本語に訳さなければいけないという意識にとらわれず、やさしいものをたくさんという原則で読み進める読書法です。

多読プロジェクト

学修総合支援センターリメディアル教育「IMU多読プロジェクト」は、学年対象で図書館所蔵の多読図書を利用し、「読む楽しさ」を味わうことができ、自然に多くの英文に触れることで英語の基礎力を高めます。

また、学生は、「IMU多読プロジェクト（学生向けマニュアル）」により「Extensive Reading Diary」に多読図書の総語数などの読書内容を記録し、100万語を目指します。



● Oxford Reading Tree : Stage 6



● Oxford Reading Tree : Stage 1+



● Oxford Reading Tree : Stage 2



● Penguin Readers : Easystarts

多読三原則

多読三原則は、日本語で読書するときに自然に行っていることです。英語にも応用します。

- ①辞書は引かない
- ②分からないところは飛ばす
- ③つまらなくなったら別の本へ

多読図書が充実しました

「IMU多読プロジェクト」の取り組み支援のため、多読図書が518冊追加され、706タイトル1,067冊に拡充しました。“Oxford Reading Tree”“Penguin Readers”“Foundations Reading Library”“Oxford bookworms library”のシリーズを揃え、学生それぞれに合ったレベルで楽しく読むことができます。特に、“Oxford Reading Tree”は複数冊ずつ配架されています。学生は、授業や自学自習に活用しています。



多読コーナー（学習センター2階）

利用者：本学学生（学部生・大学院生・研究生・科目等履修生・聴講生）
教職員
その他（本学元教職員・同窓生・明星大学通信教育生・市民・近隣市町村・いわき市内高校生・父母会）

入館者数：91,989人、1日平均 315人（年間開館 日数：292日）

貸出冊数：10,946冊 内訳（学生 7,980冊・教職員 1,612冊・その他 1,354冊）

レファレンス：学内 224件 内訳（文献調査 68件・事項調査 7件・利用指導 135件・その他 14件）

レファレンス：学外 文献複写 内訳（依頼 680件・受付 161件）
現物貸借 内訳（依頼 121件・受付 111件）

市民利用登録数：181人 内訳（男 104人・女 77人）

図書館トピックス

1. 企画展「いわきのお寺に眠る本たち」

図書館1階貴重書コーナーにおいて、福島県地域文化研究会の足掛け17年にわたりいわき市内のある如来寺（浄土宗）と宝聚院（真言宗）に所蔵されている聖教・典籍類を調査した内容の「いわきのお寺に眠る本たち」を10月23日（金）から11月21日（土）の期間にて開催しました。

期間中は多くの方々に来館いただき、お寺の調査とはどういったことを行っているのか、またお寺の本からどのようなことが分かるのか、いわきにおける地域の教養の担い手としてお寺の果たしてきた役割について等ご覧いただきました。

展示概要

- I お寺の本の調査の進め方
- II お寺の本からわかること
- III お寺の本のいろいろな形



2. 「トーベ・ヤンソン」・「温泉」の関連図書を展示中

図書館2階展示コーナーではトーベ・ヤンソン生誕100周年として本学所蔵の同氏の関連図書等、また、学習センター2階では本学所蔵の温泉に関連する図書をそれぞれ展示しています。

3. 第6回選書ツアー開催

今年で6回目となる好評企画の学生による視点で図書資料を直接書店で選書してもらう「選書ツアー」を10月7日（水）に開催し、合計27冊が選書されました。また、参加した学生は選書ツアーを通じて図書館業務の一部（図書資料の選書、蔵書の確認等）を体験しました。

選書された本は、選書した学生本人に紹介ポップを作成していただきます。図書館での手続き終了後、学習センター2階に「図書館選書ツアーコーナー」を設置し、図書資料と紹介ポップを卓上に展示しています。



4. 図書館内照明LED化

8月～9月にかけて、図書館2階・3階フロアと階段及び書庫内全部の照明工事が行われ、図書館内全ての照明が蛍光管からLEDとなりました。

5. 学園祭「図書リサイクルフェア2015」開催

図書館では、廃棄手続き済みなどの図書、雑誌を提供する「図書リサイクルフェア2015」を学園祭期間の10月24日（土）・25日（日）に開催しました。学園祭に来場された多くの方々に図書館へ足を運んでいただき、興味のある本を手に取り内容を確認され、数多くの図書をお持ち帰りいただきました。